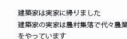
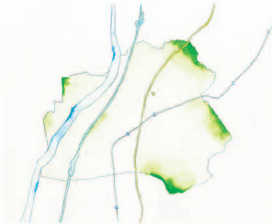


ここに住む住人がどのようにしてこの暮らしを始めたのか



# 「農のアトリエ」 小林 しほり

## □site



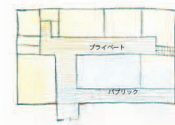
敷地地帯より

### 小布施の農 × 家

小布施には自分の家を解放して、外部の人に提供するオープンガーデンという制度がある。その延長で農家の住宅は都市部での住宅よりもずっとパブリックに開かれている。それは、農という職業が家の中に入り込んでいることが大きい。家は情報交換の場であり、作業場の一部で都市部で言うカフェやオフィスの機能を持っている。



オープンガーデンの概念



一般的な住宅の平面  
玄関、廊下、客室はパブリックな空間をもち、別の人が入ってくる。

### □信州小布施

小布施は半径2キロ以内にはほとんどの集落が入る良野町で最も面積の小さな町である。その小さな町に年間120万人の観光客が訪れる。それは整備された観光地の幅員だけでなく「農業と文化」をまちづくりの核として、中心部から農家町まで続く景観のグラデーションも大きな魅力となっている。そして、気候は内陸性気候で寒暖の差が大きく、最高気温は35℃、最低気温は-15℃まで下がる。この特有の気候条件と風土の個性の確固たる土壌により農産物の栽培に適している。りんごやぶどうなどが多く栽培されている。



小布施の農と家

### 対象敷地 長野県上高井郡小布施町都住1088

敷地は小布施のなかでも農家が多くりんご畑やぶどう畑がある農村地域にあり、北部の延徳田んぼと民家がある地域との境界に位置している。  
敷地南側と東側には民家があり、北側は農地で西側も車1台が通れるほどの幅員の道路を挟んで野菜や果樹園地が広がっている。また西側には長野県北信地方の長野盆地の代表的な5つの山である妙高山、斑尾山、黒岳山、戸隠山、飯綱山の北信五岳を望むことが出来る。

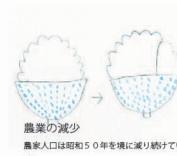


plot site 1:2000

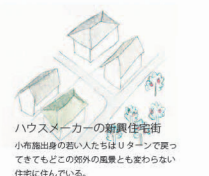
### □現在の問題



農業の普及化  
TPP 問題などでもあらわになっていくように日本での農業の重要性が失われつつある。



農業の減少  
農家は昭和50年を境に減り続けている。



ハウスメーカーの新築住宅  
小布施出身の若い人たちは1人1人町をでてきててもこの郊外の風景と変わらない住宅に住んでいる。



農業の空洞化  
小布施の中でも新しい住宅は市街化区域に建てられて、周辺の農村地域の人口は減り続けている。



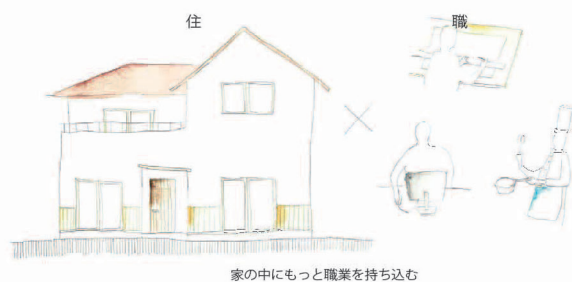
農業の高齢化  
現在の小布施町の農業の3割しか後継者がいない。



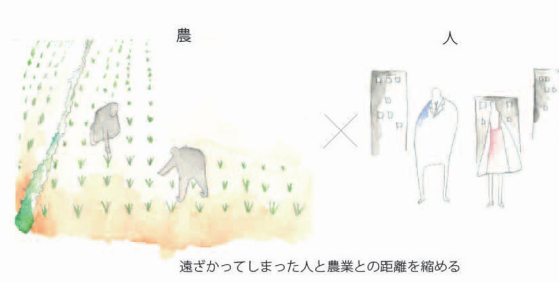
小布施の人口減少  
全国的な問題だが小布施も例外ではなく、町としては新規就農者を支援することで小布施に住んでもらうプロジェクトを行っている。

## □program

### 「様々な職業の人が地方で農業をしながらす集住の提案」



家の中にもっと職業を持ち込む



遠ざかってしまった人と農業との距離を縮める

### 田園住宅のプロトタイプ

現在の住宅は都市住宅と郊外住宅の2つしかない。そのためどの地域へ行っても同じような風景が広がっており、郊外住宅では農作業スペースや広場が無いため農業をやるのは困難である。ここに新たに現代の農村地域での住宅のかたちとして田園住宅を提案する。



プロトタイプ

### 農家住宅の特徴

- 01 農作業のピロティ空間
- 02 軽トラで入れる物置
- 03 広い庭
- 04 日当りの良い縁側
- 05 深い軒下空間
- 06 庇のある玄関前スペース



01 農作業のピロティ空間

02 軽トラで入れる物置

03 広い庭

04 日当りの良い縁側

05 深い軒下空間

06 庇のある玄関前スペース

### 半農半Xの暮らし

農業は季節によって忙しさが変わり、天候によっても作業が大きく左右される。また金銭的な理由から副業農家が多いが、農業の仕事が今地方にある仕事だけではなく、都市でやっている仕事を持つ。SOHOのような仕事をしている人はインターネットが普及した今、都市と地方と環境の違いは少なくなってきた。



### 職住近接のこと

昔は今日のように住宅とオフィスのように家と職が離れているのではなく、町屋や農村でも家にもっと仕事が入り込んでいた。仕事という社会との境があることで家はより暮らしに開かれていき小さな賑わい、大きな賑わいが生まれる。



オープンハウス



閉じた家

### □まちへの広がり

いろいろな職業の人たちはまちにでいて、その専門性をまちに還元していく。料理家はおいしい料理教室を開いたり、作曲家はミニコンサートを開催する。なんでもない田舎に都会の光輝がもたらされる。



### □空き家

小布施には多くの空き家が存在し外の人の需要もあるが、今は所有者が管理する元気が無く放置されている。それをリノベーションによって田園住宅をつくることできる。



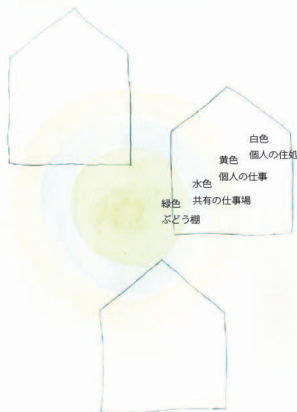
### □既存住宅

農村地域の既存住宅は大きな家2人しか住んでいないなど、その資産を活用出来ていない。ここに建築家が介入していく。

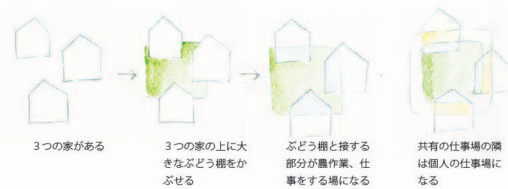




## □form



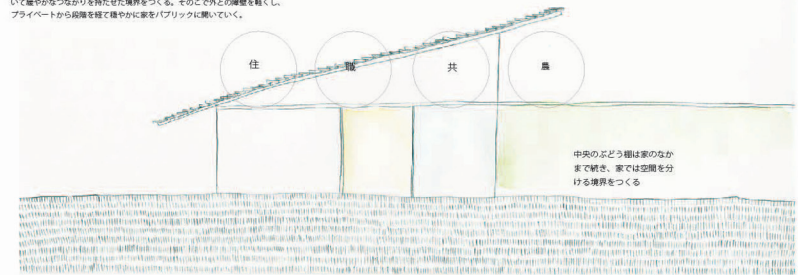
形態 diagram



### 3人の建築家の役割

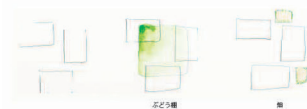
#### 境界をセルフビルド

建築家は「住」「職」「農」の4つの空間の境界をつくっていく。境界は家ごとに異なり、また季節によっても変化していく。現在の壁やガラスのような完全に空気や音障を分けてしまう方法ではなく、薪や干し草などの農家の要素を用いて緩やかなつながりを持たせた境界をつくる。そこで外との障壁を軽くし、プライベートから段階を経て緩やかに家をパブリックに開いていく。



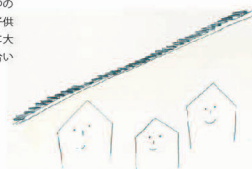
## □2つの畑とぶどう棚

隣の家と畑でつなぎ、3つの家はぶどう棚でつながる



## □1つ屋根の下

個々の家は1つの片流れの屋根にし、その下に3つの家族が暮らしている。子供もお年寄りも昔のように大家族で家族同然の付き合いが生まれる。



## □暮らす場所を移動

ここに住んでいる人は季節によって住む場所を変える。夏は気持のよいぶどう棚の下が食卓で、冬は暖かい薪ストーブの側が一番の寝床となる。

